

集落営農組織を核としたタマネギの拠点産地づくり

1. 産地の概要(R6年)

- 【生産組織】JAしまね斐川野菜部会
- 【生産者数】 31名
- 【栽培面積】 24ha
- 【出荷量】 1,085t
- 【販売額】 120,000千円
- 【取組の背景】



出雲市斐川町では、品質の高い磨きタマネギの産地づくりを進めてきたが、貯蔵中に症状が出る黒かび病等により生産量が減少。
一方、斐川町の農地面積の約50%をカバーする集落営農組織では、米価の低迷により高収益作物の導入が急務となっていることから、**集落営農組織を拠点としてタマネギの生産拡大を推進。**

2. 取組の経過及び概要

(1) 作付規模ごとに機械化体系の提案

実演会を開催して作業時間を計測し、斐川町内の拠点毎に、栽培面積やほ場の大きさに応じた機械化体系(大規模、中規模)を作成して提案。

斐川タマネギ機械化体系

行程	中規模体系 (30a~1ha)	大規模体系 (1ha~)
種付	兼用全自動移植機 作業人数：3人 作業効率：1時間/10a	
畑上	茎葉処理機+畑取り 作業人数：3人 作業効率：3時間/10a	根切り ディガー 作業人数：1人 作業効率：1時間/10a
拾上	アガール 作業人数：3人 作業効率：3時間/10a	ハーベスタ 作業人数：5人 作業効率：1.5時間/10a
運搬	運搬車 ホイルローダー又はリアフター	
収穫時間	6時間/10a	2.5時間/10a
合計時間	7時間/10a	3.5時間/10a

(参考) 小規模体系(30a以下) 合計時間 10時間/10a

(2) 機械化体系に応じた収支モデルの提案

R2年産の斐川町内の栽培実績や各作業にかかる費用を計算して、機械化体系ごとの収支モデルを作成して提案。

斐川タマネギ経営モデル (単位: 10aあたり)

機械化体系	中規模体系	大規模体系	(参考)水稲
所得①	122,893	115,893	46,346
総作業時間	63.6	51.3	19.3
労賃②(1,000円/h)	63,600	51,250	19,300
純利益(①-②)	59,293	64,643	27,046

算定データは島根県農業経営指導指針(H30)より引用、(参考)水稲は平坦地域 水田面積30ha規模

3. 取組の成果

(1) 機械化体系と共同育苗体制の整備

機械の整備に当たっては、新規作付組織のインシャルコストの低減を図るため、JAに働きかけてJAレンタル方式を採用。

R4年産からJA斐川種苗センターで、共同育苗を試験的に実施し、R7年産はトレイ約915枚(約240a分)程度を育苗。

(2) 広域玉葱調製保管施設の利用による生産拡大

JAしまねが、R4年度に乾燥と低温貯蔵能力のある高度化施設を整備し、**栽培面積70haまでのタマネギを収容可能。**

R7年産は「水田活用の直接支払交付金」の5年に1回の水張りルールの影響により一時面積、施設利用組織は減少したが、R8年産では再開する見込み。

	R6	R7	増減
斐川町内			
栽培面積	24.0ha	21.0ha	87.5%
施設利用組織	11組織	9組織	81.8%

(3) 腐敗球の発生低減による出荷率の向上

排水対策、薬剤散布の呼びかけ徹底により腐敗球が大幅に減少(R6年産:28.8%→R7年産:8.3%)。

代表者から一言

機械化体系等を上手く活用し、目標の30haを目指して面積拡大したい。

江角典広 部会長

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 排水対策や病害対策を徹底し**目標製品重量5トン/10a**の達成により収益性を確保
- (2) 大規模土地利用型経営体への推進による**目標面積30haの達成**
- (3) 機械利用マニュアルを作成し、作業効率を向上